

### 第3 評価の結果及び意見

#### (評価の結果)

日本の政府開発援助（ODA）について、各種意見等や既往の評価結果等を全体的に概観した結果では、一定の評価は得られている。

しかし、限られた援助資源を有効かつ効率的に利用し、成果重視の政府開発援助（ODA）の実現を図るためには、援助効果の発現とその効果の持続性（自立発展性）を確保することが重要であり、政府開発援助（ODA）事業の特性や事情等に応じ、今回のロジック・モデルで明らかにした次のような援助手法等に積極的に取り組むことが重要となっている。

包括的かつ一体的な事業の実施（プログラム・アプローチ、ハード・ソフトのバランスの取れた援助の実施）のための案件形成段階から追加支援に至るまでの各援助形態間・各府省間の連携・調整

効果的かつ効率的な実施のための他の援助国・国際機関等との連携・調整

「効率性」及び「効果の持続性（自立発展性）」の確保のためのNGO等の民間援助団体との連携や被援助国との連携（南南協力支援の強化等）

在外公館、実施機関現地事務所などの現地機関及び実施機関の機能・役割の強化（予算配分の在り方、業務・権限の委譲、体制強化等）

事業計画変更、援助期間の延長、援助の中断・停止、迅速な追加支援等、援助の仕組み・手続の柔軟性・弾力性の確保

また、併せて、援助効果の発現とその効果の持続性（自立発展性）を確保するためには、各府省及び実施機関による評価の結果に基づく教訓・課題を政府開発援助（ODA）の政策立案や実施過程に迅速かつ的確に反映（フィードバック）させることも重要となっている。

#### (意見)

したがって、各府省において、政府開発援助（ODA）事業の特性や事情等に応じ、「評価の結果」に示した援助手法等に積極的に取り組み、総合性を確保しつつ、政府開発援助（ODA）を実施していくことが必要である。

また、各府省において、援助効果の発現とその効果の持続性（自立発展性）の確保を目的とした今回のロジック・モデルを参考にして、評価結果の教訓・課題を政府開発援助（ODA）の政策立案や実施過程に反映（フィードバック）させるための機能のより一層の充実・強化を図ることが必要である。